

平成 22 年 5 月 30 日現在

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2007-2009

課題番号：19790377

研究課題名（和文） 地域医療連携と病床再編に関する調査研究

研究課題名（英文）

Study of rationalization of health care resources

研究代表者

堀 真奈美（HORI MANAMI）

東海大学 教養学部 准教授

研究者番号：60349321

研究成果の概要（和文）：

医療資源の有効活用という視点から、病床再編と地域医療連携の問題をとらえ、日英制度比較、入院と在宅療養の相違、将来の療養環境の選択に関する意思決定要因の把握を試みた。全人的なケアが必要である高齢者の場合は、医療だけでなく介護との連携が重要であり、地域に資源が不足する場合は、退院遅延の要因になることが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：

This study focused on developing cooperation and partnership between health care organizations on in terms of rationalization of health care resources. This study carried out a questionnaire survey about the place in which patients prefer to stay and receive care, and had interviews with health care providers about the differences in the quality of care between hospital care and home care.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,900,000	0	1,900,000
2008年度	700,000	210,000	910,000
2009年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	390,000	3,590,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：境界医学・医療社会学

キーワード：地域医療、医療連携、病床再編

1. 研究開始当初の背景

医療制度構造改革の一環として、平成 17 年末に介護保険適用の療養病床を廃止し、医療型療養病床に一本化、医療の必要度の高い患者のみに入院を認める方針が打ち出された。また、この病床再編と同時に、平均在院日数

の短縮が政策的に誘導されている。

これらの政策は、医療資源の有効活用という視点から一定の評価はできる。だが、地域における医療機能の分化や退院支援（後方支援）や在宅医療・福祉・介護との連携がうまく

く機能していない状態では、一日当たりの医療密度が高まるだけで、トータルとして医療資源の有効活用が実現したことにはならない。また、不適切な早期退院は、患者のADLの低下やQOLの悪化にもつながりかねず、最悪の場合は、症状が悪化して、さらに重大な疾病を発症させることにもなりかねない。ゆえに、質を見ないまま量的側面のみで、平均在院日数を短縮させることには一定の限界があり、中・長期的な視点における医療資源の有効活用の戦略を立案することが求められる。一方、日本に比較して平均在院日数が短い欧米諸国においても、不必要な長期入院の防止および早期退院は財政面から重要な課題と考えられていた。特に1980年代に病床削減を行った英国は、退院遅延問題が90年代の政策問題として対策がとられていることから、本研究では英国にも焦点を当てる。

2. 研究の目的

研究開始当初における本研究の目的は、1) 地域における医療連携、医療福祉連携が高齢者の不適切な長期入院の予防に貢献するかどうかを明らかにすること（日英比較研究）、2) 療養病床の再編が医療・介護提供体制に与える影響把握することであった。

だが、後者については、政治的な事情等により、療養病床の削減方針は事実上凍結されていることから、政策目標で掲げられた病床再編による影響を推計することではなく、現状の高齢者等の療養環境の選択に関するニーズから、どれだけの再編が必要なのかを検討することを目的とした。

3. 研究の方法

学術文献、調査報告書、専門誌、政府報告書等のレビュー、日英の医療制度の比較研究、国内外の医療介護現場に対するヒアリングおよび意識調査の実施。

4. 研究成果

まず、学術文献、調査報告書、専門誌、政府報告書等のレビューより、英国では、2000年代前半に、退院遅延対策として、高齢者医療（ソーシャルケアも含む）で求められる全国的なサービス基準の作成、インターミディエイトケアの導入、医療連携を推進する補助事業、退院遅延のペナルティ制度の導入などにより、この問題に対応し、一定の成果をあげていることがわかった。

ただし、異なる組織間の連携には、地域レベルで橋渡しの役割を担う組織、人材が必要であり、全国的なガイドラインだけではうまくいかないことが示唆された。また、高齢者の場合、全人的なケアを必要とすることから、医療とソーシャルケアの連携が強く求められているが、すべての地域でうまく言っているとはいえない状況にあることがわかった。

特に、医療と介護の連携という視点では、介護保険のような介護の安定的な財源がない英国では、地域によって受けられるサービスや費用負担に大きな違いが生まれていることが明らかになった。こうしたことから介護の社会化が政策課題となっており、ナショナルケアサービスの導入が提唱されている。

次に、医療機関、高齢者介護施設等で働く職員へ入院と在宅療養の相違についてヒアリング調査を実施した。入院・施設入所している患者であっても多くの場合、在宅療養を行うことが可能であることが明らかになった。在宅と病院の違いは、手術ができるかどうか、24時間対応で高度な医療処置ができるかどうかであり、それ以外について在宅でも可能である。家族の有無や建物のバリアフリーというよりも、家族ないしは本人が在宅で生活をしたという意思があるかどうか、地域に

必要とするサービスを提供する組織があるかどうかが在宅療養を選択する上で大きいということがわかった。ただし、重度認知症などがある場合は、専門知識のあるスタッフがいない場合は、訪問看護でも断られる可能性があるということであった。

また、全人的なケアを提供する上で必要とされる異なる組織、専門職間の連携は、専門用語の壁や患者へのアプローチの相違という文化の違いがあると、連携を阻害する要因となっていることが示唆された。

これらの結果は、定性的なものであり、研究成果として公表することはできなかったが、今後のモデルの構築を行ううえでの重要な知見となった。

さらに、大学生および高齢者に対して、将来、自分や家族が入院後、在宅復帰可能な状態でどのような療養環境を選択するかについて、それぞれ別個にアンケート調査を実施した。アンケートはビネット調査の手法を用いて、シナリオを設定し、患者本人およびその家族の立場の場合、どのような療養環境を選択するかを尋ねた。患者の疾病は、脳梗塞、癌週末期、認知症と設定した。

その結果、若者のほうが高齢者よりも自宅志向が強く46%、介護保険施設29%であった。高齢者は自宅34%、介護保険施設32%、医療療養病床21%であった。また、在宅療養が必要な家族がいる場合、若者、高齢者ともに、在宅療養・介護環境を整える(同居)という回答が多いが、高齢者では、高齢者介護施設、有料老人ホームを探すという回答も多く、両者を合わせると在宅療養・介護環境を整えるという選択よりも多かった。また、疾病が、脳梗塞、癌週末期、認知症では、癌週末期で

在宅療養を選択する割合が高齢者、若者ともに高い。社会保障水準を維持するために必要な負担増については、若者よりも高齢者ほうが合意しやすい傾向にあることが明らかになった。ただし、これらはサンプルの偏りの問題を除去しているわけではないため、一般化するには一定の注意が必要である。

なお、今後の課題としては上記の研究で得た成果・知見を生かして、将来において必要な医療資源の推計を行うことがあげられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計9件)

- ① 堀真奈美 (2007) イギリスの医療政策・財源の動向、けんぼれん海外情報、No.75、P17-24 (査読無)
- ② 堀真奈美 (2007) ブラウン政権発足後の医療政策、けんぼれん海外情報、No.76、P 1-3 (査読無)
- ③ 堀真奈美・稲森敦子 (2007)、「退院遅延」防止への取り組み、健康保険、61 (8)、P 98-103 (査読無)
- ④ 堀真奈美 (2009) イギリスの医療提供体制の機能分化と連携方策、健保連海外医療保障No. 82、22-33 (査読無)
- ⑤ Manami HORI (2008) A comparative study of the current health care policies in the UK and Japan The Japanese Journal of Social Security Policy, Vol. 7, No. 1, 1-12P (査読有)
- ⑥ Manami HORI (2008) Promoting human rights and equality through care and support, Department of Health, the care and support website (査読無)

- ⑦ 堀真奈美 (2008) イギリスの高齢者ケア
健保連海外医療保障 , No. 80, 22-26
(査読無)
- ⑧ 堀真奈美 (2009) 若者と社会保障—高齢
者医療・介護の療養場所の選好、週刊社
会保障、No2553、42-47 (査読無)
- ⑨ 堀真奈美 (2009) イギリスにおける医療
政策・健康政策に関する最近の動向、健
保連海外医療保障、No. 84、8-17 (査読
無)

[学会発表] (計2件)

- ① Manami HORI (2008) The Japanese
Experience in Health and Social Care
Reform、CSIP SE Conference
- ② 堀真奈美 (2008) 守るべき地域医療とは
何か、イギリスから学ぶ地域医療のあり
かた、慶應義塾大学ヘルスサービス研究
会

6. 研究組織

(1) 研究代表者

堀 真奈美 (HORI MANAMI)
東海大学・教養学部・准教授
研究者番号：60349321

(2) 研究分担者 該当なし